建設キャリアアップシステム登録者の分析

1. はじめに

建設キャリアアップシステム（以下「CCUS」という）については，2024 年 9 月末の技能者登録が 150 万人を超えるなど，着実に登録者や利用者が増加している状況となっています。

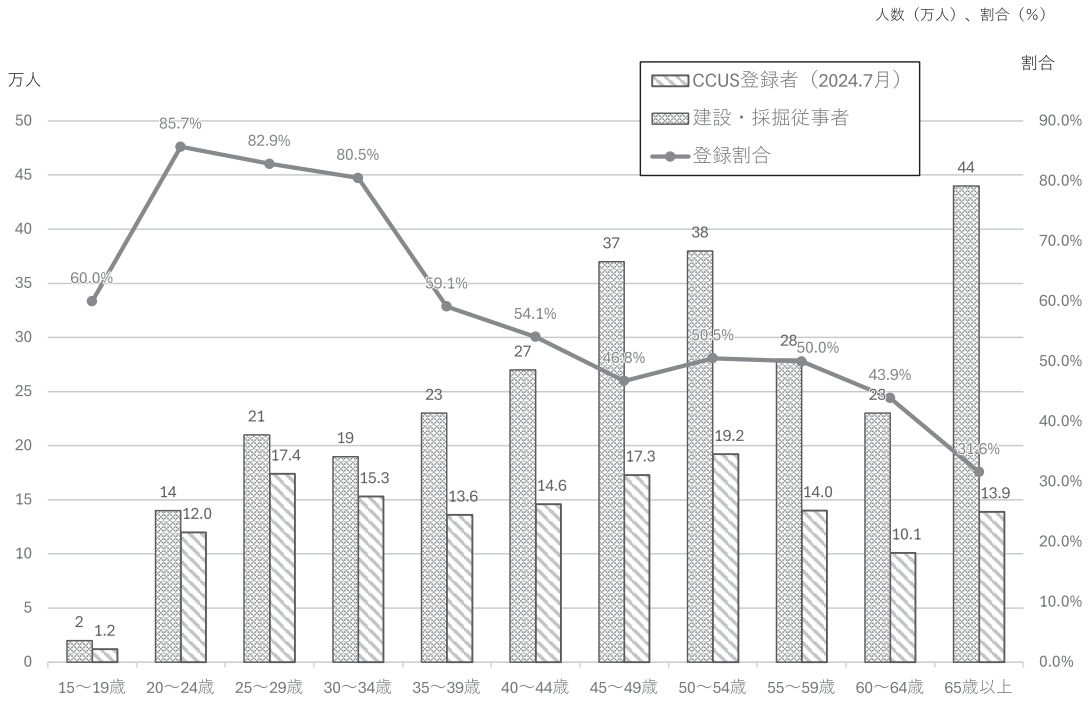
そのような中で，本稿では，技能者及び事業者の登録についての分析や就業履歴登録の状況を解説いたします。

2. 技能者登録

CCUS の登録技能者の約 148.7 万人（2024 年 7 月末）について，年齢階層別の登録状況を見ると，15 歳～ 19 歳の階層を除き，各階層ともに 10 万人以上の登録数となっており，各階層に大きな変化は見られないところですが，労働力調査（2023 年調査結果）の建設・採掘従事者との比較で見ると，15 歳～ 19 歳の階層は 60.0％の登録率，20 歳～ 24 歳の階層から 30 歳～ 34 歳の階層については，80％を超える登録率となっているのに対し，45 歳～ 49 歳の階層以降はすべての階層で 50％を切る登録率となっており，労働力調査において技能者の多い階層である 45 歳～ 49 歳，50 歳～ 55 歳，55 歳～ 59 歳については，CCUS 登録率はそれぞれ 46.8％，50.5％，50.0％となるなど，3 つの階層の合計で見ると約半数の技能者しか登録していない実態となっています。なお，若年・青年層について，労働力調査との比較においては，CCUS の技能者登録率が良い結果となっていますが，CCUS の登録者には，CCUS への登録が義務付けられている外国人技能実習生，特定技能外国人も含まれており，その多くが，若年・青年層に多く存在することにも注意が必要であると考えます（**図―1**）。

3. 事業者登録

CCUS の法人･個人事業主の事業者登録は 17.9 万社となっており，資本金階層別に見ると，建設業許可業者数の多い階層です。資本金 1,000 万円～ 5,000 万円の登録事業者が約 5.5 万社，資本金 500 万円未満が同じく約 5.5 万社となっています。建設業許可業者数と CCUS の登録者数との比較で見ると資本金 5,000 万円以上の階層では，いずれも 40％以上の登録率となっていますが，資本金 1,000 万～ 5,000 万円の階層，資本金 500 万円未満の階層では，40％を下回る結果となっています。また，建設工事の実績がある工事実績有許可業者数（施工統計調査 2022）との比較では，各階層で概ね 50％以上の登録率になっているのに対して，1,000 万円以上 5,000 万円未満の階層で登録率は 40％台にとどまっており，登録率で見ると相対的に低い状況が見て取れます。当該階層については，地方元請事



図―1　年齢階層別の CCUS 技能者登録の状況

統　　計

表―１　事業者登録状況

事業者数	事業者登録数：A 2024 年 7 月末	許可業者数：B 2024 年 3 月末	登録率 （A/B）	工事実績有 許可業者数：C （建設施工統計 2022）	登録率 （A/C）
個人	26,426	67,780	39.0%	36,690	72.0%
法人（総数）	152,866	411,603	37.1%	292,841	52.2%
500 万円未満	55,718	139,718	39.9%	87,481	63.7%
500 万円以上 1,000 万円未満	33,844	93,843	36.1%	60,148	56.3%
1,000 万円以上 5,000 万円未満	55,355	160,270	34.5%	130,406	42.4%
5,000 万円以上 1 億円未満	5,483	12,377	44.3%	10,384	52.8%
1 億円以上 10 億円未満	1,836	4,197	43.7%	3,454	53.2%
10 億円以上 100 億円未満	492	901	54.6%	968	65.1%
100 億円以上	138	297	46.5%		
総　数	179,292	479,383	37.4%	329,531	54.4%

業者の多くが当該階層に属すると考えられることから，依然として地方元請事業者への登録，普及が進んでいない実態が見て取れます（**表―１**）。

4. 就業履歴の蓄積状況

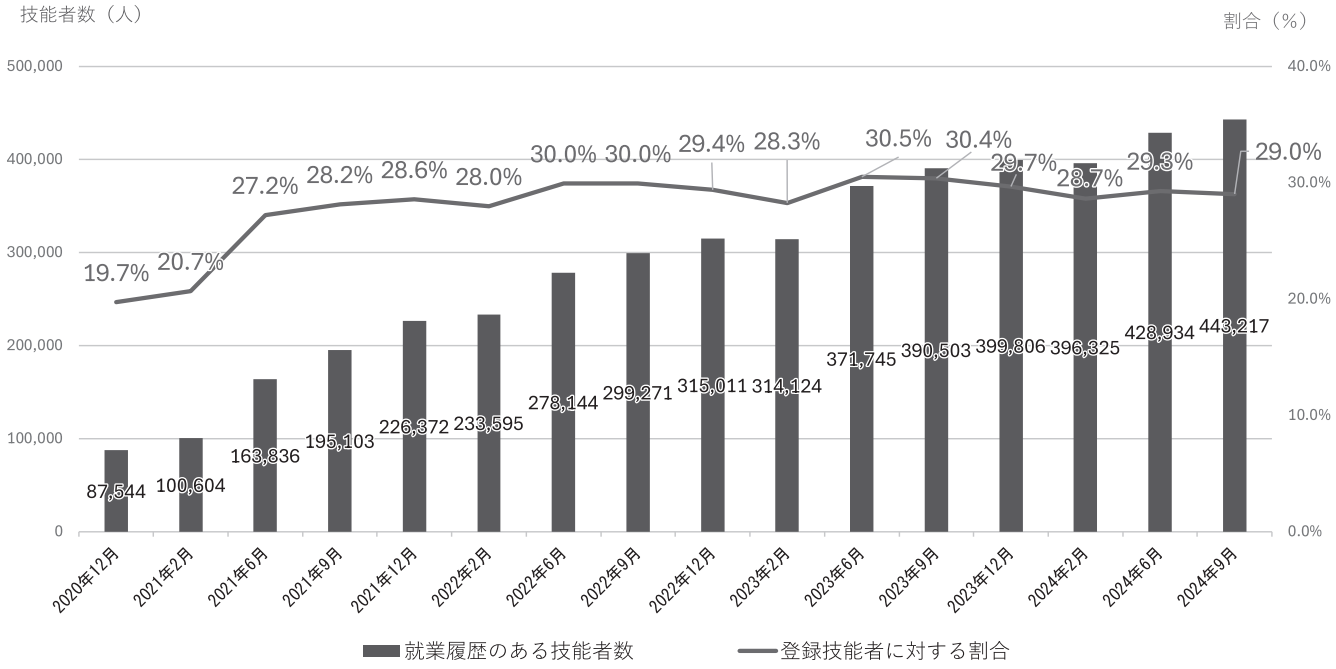
(1) 就業履歴のある技能者数

就業履歴の蓄積がある技能者数の推移を見ると，技能者登録数の増加もあり，着実に増加しているものの，登録技能者に占める割合は，2022 年 6 月に 30％となって以降，ほぼ横ばいの状況が続いています（**図―２**）。

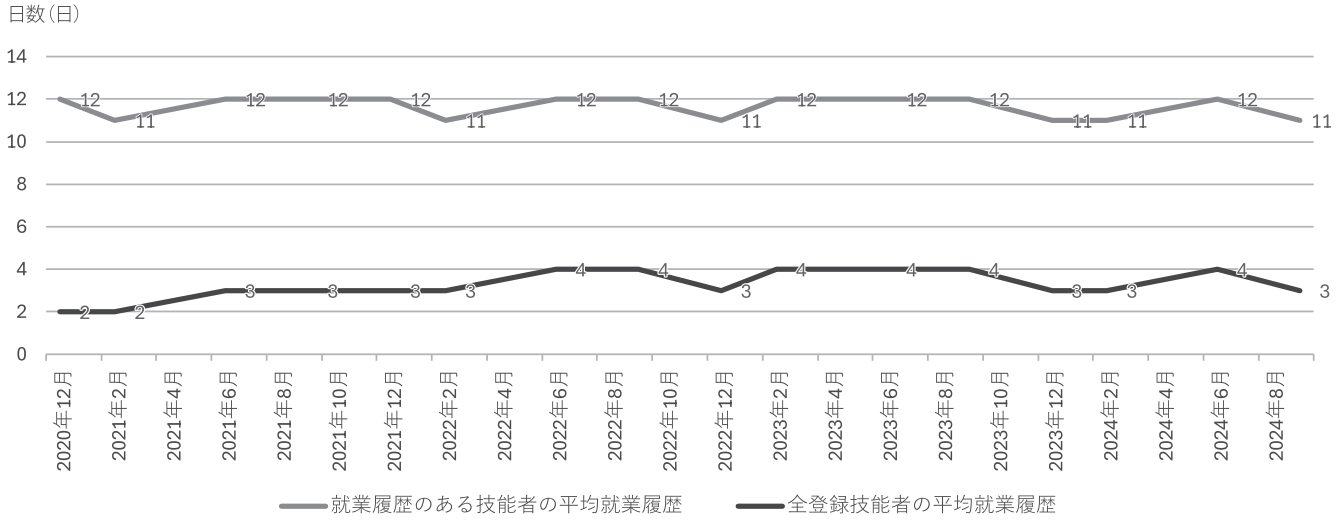
就業履歴のある技能者数の増加に比例せずに，就業履歴のある技能者の割合が 30％で推移している原因については，就業履歴の蓄積（現場運用）を行っている元請事業者数や就業履歴を蓄積できる現場数に起因するものと推測しており，その因果関係を含め，検証を行う予定としています（**図―２**）。

(2) 技能者の平均就業履歴数

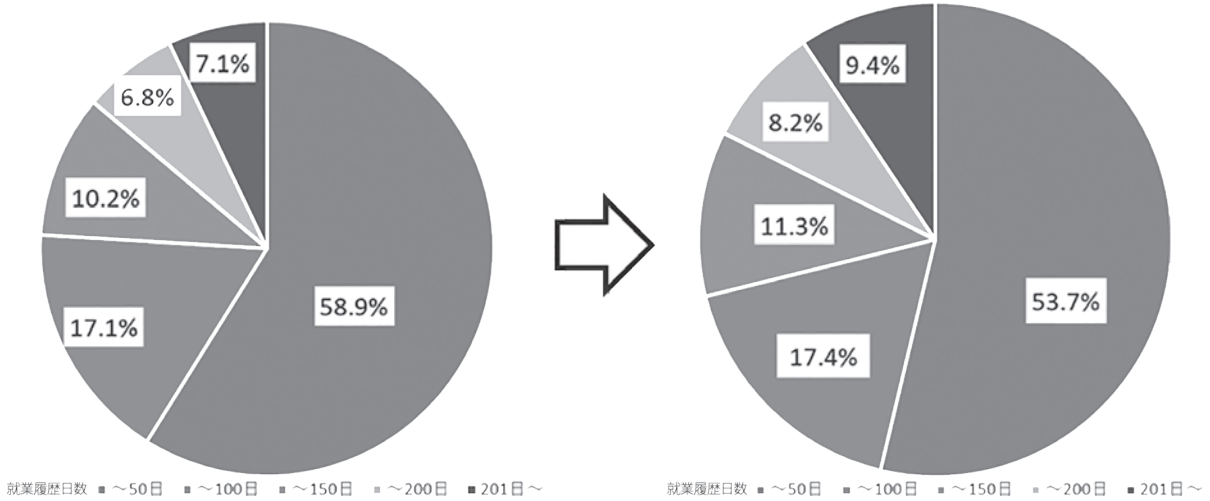
技能者の一月あたりの平均就業履歴数を見ると，就業履歴の蓄積のあった技能者の平均日数は 12 日となり，全登録技能者数で見ると平均日数は 4 日となっています。これは，2020 年 12 月以降はほぼ横ばいの結果になっており，4（1）の就業履歴のある技能者の割合が，ほぼ横ばいで推移していることにも関係するものと考えており，今後，検証を行いたいと考えています（**図―３**）。



図―２　就業履歴のある技能者数及び登録技能者に対する割合



図―３　技能者の一月あたりの平均就業履歴日数



図―４　構成比比較（2021 年度→ 2023 年度）

(3) 年間就業日数の比較について

就業日数区分で見ると，2021 年度の就業履歴の蓄積のある技能者のうち，50 日未満の就業履歴数の技能者の割合は半数以上の 58.9％ですが，2023 年度では 53.7％と減少し，51 日以上の就業履歴のある各階層の割合が増加していることから，51 日以上の就業履歴蓄積のある技能者が徐々に増加している結果となっています。

図―４において，年間就業履歴蓄積日数を 1 ～ 50 日，51 ～ 100 日，101 ～ 150 日，151 ～ 200 日，201 日以上の区分で割合を表示していますが，同一事業者に所属している技能者間において，就業履歴蓄積日数に違いがあるケースが見受けられたところから，該当する事業者を抽出しヒアリングを行ったところ，就業履歴蓄積が 50 日程度の技能者と 201 日以上の就業履歴蓄積のある技能者を比較調査した結果，実際の就業日数には差がなく，配置された現場に就業履歴を蓄積する環境があるかないかの差で，CCUS に登録する就業履歴に差が出ているとの聞き取り結果となりました。

5. おわりに

2024 年 4 月 1 日以降，CCUS 能力評価申請における就業履歴の証明については，CCUS に蓄積された就業履歴数のみで能力評価が行われる（令和 5 年 3 月 31 日までの就業年数等については，令和 11 年 3 月 31 日まで経歴証明書による申請が可能）ことから，早急に就業履歴の蓄積ができる環境の整備が求められています。

[筆者紹介]
今泉　登美男（いまいずみ　とみお）
（一財）建設業振興基金
建設キャリアアップシステム事業本部
運営管理部長